

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	理 科
-----	-----

発行者	総合的な所見
東 書	第1の観点 ①単元や章の初めの「学習前に書こう」、単元や章の終わりの「学んだことをチェックしよう」「学習後も書こう」で認識の形成を支援している。単元の終わりに「学習内容の整理」「確かめ問題」「活用問題」を設定している。 ②観察・実験にあたっては、「観察の目的」、「観察の方法」では手順のまとまりごとに「ステップ」「結果の見方」「考察のポイント」として探究の過程を示している。 第2の観点 ③各単元や小単元の初めに印象的な写真や漫画を掲載し、生徒の思考に沿う疑問や単元を貫く問いが書かれている。 ④「構想」の中で、既習事項と関連させながら計画を立てる視点を示している。「分析解釈」の中で、結果からわかることが記載されており、さらに改善できる視点について示されている。 ⑤巻頭に、話し合いの進め方や説明のポイントについて書かれている。また、「議論のしかた」を設定し、4つのポイントが示されている。 第3の観点 ⑥日常生活や社会に広げて考えることができる「学びを生活や社会につなげよう」という内容を提示している。分野ごとに、理科に関連した事物・現象の読み物が豊富に提示されている。 ⑦巻頭に「『探究』の流れを確認しよう」として探究の過程を活動例とともに示している。ページの下部に「問題発見」「?」「構想」「分析解釈」等のキーワードのタブに色を付け、そのページが探究の過程のどの段階を学習しているかを示している。 第4の観点 ⑧指導時期に合わせて、1分野・2分野を配列している。 ⑨巻末資料では、理科の見方・考え方を広げるもの、学習に必要な知識・技能が確認できる。単元末の発展的探究課題では、学習内容の振り返りができる活動が仕組まれている。コラムでは、高校につながる発展的なものが多く、学習内容を実生活につなげる内容のものもある。

	第5の観点 ⑩探究的な学習のサポートとして、学習したことを定着させたり、学びを広げたり、深めたりする様々なデジタルコンテンツが豊富に用意されている。
大日本	第1の観点 ①単元の終わりに「探究活動」「まとめ」「単元末問題」「読解力問題」「つながる」を設定している。基礎的な知識の復習から活用まで幅広くおさえている。 ②観察・実験にあたっては、目的、着目点、必要なものを明記している。また、「基本操作」では、図・写真やイラストで手順や観察・実験で用いられる器具の基本操作（技能）を示している。 第2の観点 ③各単元の初めに印象的な写真が掲載され、単元を貫く問いが示されている。既習事項の復習が整理されている。 ④「計画を立てよう」の中で、実験方法の計画の視点が記載されている。分析解釈については、「結果の整理」の場面において例が記載されており、そこから考察できるようになっている。 ⑤第1学年の巻末のみに、「探究の進め方」を設定し、「問題を見つけよう」「課題をつかもう」など、予想や仮説を立てるための流れが示されている。また、「話し合おう」が設定され、話し合いの内容や方法が整理されている。 第3の観点 ⑥生徒が学習内容に興味・関心をもつような活動を複数提示している。暮らしの中で体験する事物・現象を「暮らしの中の理科」として日常生活に関連付けて提示している。 ⑦第1学年の巻末に「探究の進め方」として探究の過程を示している。「問題を見つけよう」「計画を立てよう」「結果から考えよう」「振り返ろう」等のマークを表示することで、重点を置く探究の過程を示している。 第4の観点 ⑧指導時期に合わせて、1分野・2分野を配列している。 ⑨巻末資料では、基本操作が多く掲載されており、他教科とのつながりも掲載されている。単元末の発展探究活動では、学習内容を振り返ることができる活動が仕組まれている。コラムでは高校につながる発展的なもの、学習内容を実生活につなげる内容のことが多い。

	第5の観点 ⑩数は少ないが、学習したことを確実に定着させ、より深く理解するために役立つデジタルコンテンツが用意されている。
学 図	第1の観点 ①単元の終わりに「学習のまとめ・用語を覚える」と「学習のまとめ・基本問題に慣れる」で基礎・基本の定着に重点を置き、巻末に「計算問題」「読解力強化問題」「思考をさらに深める」の活用的な問題を設けている。 ②観察・実験にあたっては、「気づき」「課題」「仮説」「計画」「方法」「結果」「考察」と表記している。実験や観察のページの上部に基本操作について参考にする補充資料の掲載ページを示している。 第2の観点 ③単元の初めに大きな写真が掲載され、SDGs との関連が示され、学習課題や復習事項が整理されている。 ④「仮説」「計画」の中で、計画する視点をイラストを交えて示している。「結果から考察する」の中で、実験結果が記載されており、そこから考察できることも書かれている。 ⑤巻頭に「理路整然一智に働けば役に立つー」を設定し、レポートや発表での意見の伝え方が示されている。また、「Can-Do List どのように学びに向かうか」に話し合いに関する内容が書かれている。 第3の観点 ⑥理科を学習する意味を各学年の学習内容につなげて、吹き出しや漫画のような形で提示している。各章で Can-Do List が設定してあり、単元における目標や学ぶべきことを明確にしている。 ⑦巻頭に「どうする、探究の進め方」として探究の過程を示している。また、「なぜ理科を学ぶの？」として漫画で課題設定等の場面を例示している。各探究の場面で、「気づき」「課題」「仮説」「計画」等の探究の過程をページ端に示している。 第4の観点 ⑧指導時期に合わせて、1分野・2分野を配列している。 ⑨巻末資料では、基本操作や思考をさらに深めるための内容が多く掲載されている。コラムでは、学習の補助としての内容のものがほとんどである。 第5の観点 ⑩教科書の二次元コードから、ウェブ上で教科書を見ることができ、そこから動画コンテンツや、操作コンテンツを活用することができる。

教 出	第1の観点 ①単元の終わりに「重点と重要用語の整理」と「基本問題」「活用問題」「広がる科学の世界」を設定している。基礎的な知識の定着から問題を実際に解く練習という流れになっている。 ②観察・実験にあたっては、「目的」「準備」「方法」「結果」と項目で示され、観察・実験で使用する器具や装置の操作などは巻末資料の「基礎技能」として本文とは区別して示している。 第2の観点 ③単元や小単元の初めに印象的な写真が掲載され、単元を貫く問いや学習内容の見通しが整理されている。 ④「計画を立てる」の中で、既習事項を基に計画を立てる視点が示されている。分析解釈については、「考察する」の場面で例が記載されており、そこから考察することができるように視点が示されている。 ⑤「話し合おう」が設定され、課題解決に向けて話し合う場面が示されている。また、レポートの作成の場面で、内容を整理して発表する活動が示されている。 第3の観点 ⑥各章ごとに学習内容をより深めるための「ハローサイエンス」という読み物を提示している。他教科とのつながりを明確にし、理科に活用できるような資料を提示している。 ⑦各学年の巻頭に「探究の進め方 さあ、探究を始めよう！」として探究の過程を示している。また、各単元内において「疑問を見つける」「課題を決める」「仮説を立てる」等のマークを表示することで、探究の過程を示している。 第4の観点 ⑧指導時期に合わせて、1分野・2分野を配列している。 ⑨巻末資料では、基本操作が多く記載されており、他教科とのつながりも掲載されている。単元末の発展探究活動では、学習内容を発展させる内容のものが掲載されている。コラムでは、学習内容を発展させる内容のものがほとんどである。 第5の観点 ⑩教科書に掲載されている二次元コードからつながる「まなびリンク」のデジタル教材で学びをサポートしている。
-----	--

啓林館	第1の観点 ①章の終わりに「Review ふり返ろう」、単元の終わりに「学習のまとめ」、「力だめし」、「みんなで探Qクラブ」が設定されている。基礎的な知識の復習から思考力を問う問題まで幅広くおさえている。 ②観察・実験にあたっては、「目的」「方法」「結果」「考察」で探究の過程を示している。 さらに「方法」では「ステップ」で詳しい手順を示している。基本的な実験操作や器具の使い方、表やグラフのかき方は、「観察・実験などの技能」を設け、解説している。 第2の観点 ③単元や小単元の初めに大きな写真とともに単元の内容が説明されている。学びの見通しや単元を貫く問い、復習も示されている。 ④「計画」の中で、既習事項と関連付けながら計画する視点を示している。また、巻末に探Qシートが各単元ごとにある。分析解釈については、「考察」として示されており、考察の視点も示されている。 ⑤巻頭に、「探究の過程」が整理され、表現の部分で他者へ発表することが示されている。また、「発表してみよう」のアイコンで、実験結果を発表する場面が設定されている。 第3の観点 ⑥分野ごとに、日常生活とのつながりを意識した科学コラムが充実しており、他教科とのつながりが実感できるような話題を提示している。 ⑦巻頭及び巻末に探究の過程の流れを示している。各単元の一箇所に「探Q実験」を設定し、巻末に添付した「探Qシート」に生徒が書き込むことで、探究の過程に沿った学習活動が行えるようにしている。 第4の観点 ⑧2分野→1分野の順で配列している。 ⑨巻末資料では、探究に関することが多く書かれている。単元末の発展探究活動では、学習内容の振り返りができる活動が仕組みられている。対照実験を行わせ、根拠をもって考察を行うことができる。コラムでは、学習内容を実生活につなげていく内容のものが多く掲載されている。 第5の観点 ⑩動画コンテンツだけでなく、振り返りシートや、動かせたり編集できたりする多様なコンテンツで理解を助けたり、理解を深めたりすることができる。
-----	---